

ぼっ け だい 北下台周辺エリアのご案内

ぼっ け だい 鏡ヶ浦と北下台

東京湾口部に位置する館山湾は、対岸に見える富士山の雄姿を映し出すほど波静かなことから「鏡ヶ浦」(別名:菱花湾)とも呼ばれています。海岸線は約18kmにおよぶ、房総半島で最も広い湾で、江戸時代からは生鮮魚を魚河岸まで運ぶ天然の良港でした。

北下台とは、館山城(城山公園)北側の小高い丘一帯を指します。古くは北下崎と呼ばれて、鏡ヶ浦に突き出た小岬でしたが、元禄地震・大正地震の隆起や港湾埋立工事を経て、北下台の海側は現在のような低地となりました。とくに新井浦(現:「渚の駅」たてやま)周辺から柏崎浦(現自衛隊東側岸壁周辺)にかけての浜は、産物の積み出し港として江戸時代より栄え、ほぼその中央に位置する北下台は、高の島・沖の島を眺望する景勝地として、明治初期に館山町で最初の公園となりました。昭和28年(1953)には港湾法により、北下台にある正木灯を中心に半径3kmの区域を館山港とする認可を受け、千葉県が港湾管理者となっています。重要な役割を果たした北下台ですが、今は住宅地に変貌しています。



琴平神社周辺エリア

① 琴平神社

少なくとも江戸時代から当地にあり、地域の人々の信仰を集めていました。境内にある手洗石は、文化3年(1806)に館山仲町と大神宮村の人が奉納したものです。また、昭和5年(1930)に東京湾埋立株式会社の館山出張工夫たちが奉納した石灯籠があります。



② 日露戦争戦役記念碑

明治39年(1906)

館山町から日露戦争に従軍した約100名の名前が刻まれています。館山恤兵会が建設した顕彰碑で、題字は日露戦争で参謀総長を務めた大山巖によるものです。

③ 青木為治墓碑銘

明治19年(1886)

青木為治は神余出身の教師です。布良で教鞭をとっていましたが、21歳の若さで没しました。篆額は元老院議員の柳原前光、撰文は旧長尾藩士の恩田城山によるものです。

正木灯周辺エリア

① 正木灯 大正5年(1916)

船形町長を務めた正木清一郎が、父貞蔵の業績を記念して建てた照明塔です。正木貞蔵は、房州の汽船事業発展に大きな功績を残した人物で、明治14年(1881)には地元資本での共同経営会社である安房共立汽船会社を設立しています。



館山港の航路標識と公園内の照明を兼ねて建てられた正木灯は、昭和26年(1951)にその役目を終えました。かつては木の柱が立ち、アーク灯が灯っていましたが、現在は有名な書家である小野鷲堂が題字を記した台石のみが残されています。戦後の港湾法では、この正木灯を基点として半径3kmの範囲が館山港と指定されています。

日本近代水産業の記念碑エリア

① 関澤明清碑 あけきよ 明治33年(1900)

日本の水産業の先駆者。加賀藩士として幕末から渡英し、明治期には政府の派遣で欧米の万博に学び、日本の水産業を発展させました。近代捕鯨や新しい漁法を導入し、水産教育の原点となる水産伝習所を開き人材育成に尽力しながら、館山を拠点として自ら遠洋漁業を起業しました。日本で初めてアメリカ式捕鯨技術でマッコウクジラを捕獲し、その頭骨は北下台に置かれていたといいます。



② 坂東丸船員殉難碑

明治45年(1912)

明治43年(1910)、千葉県水産試験場所属の坂東丸が銚子沖で遭難し、11名が犠牲になりました。犠牲者を追悼し、事故を後世に伝えるために建てられた碑です。

③ 順天丸遭難記念碑

明治36年(1903)

明治35年(1902)、房総遠洋漁業株式会社の漁船順天丸が朝鮮沖で沈没し、22名が遭難しました。名工として知られる楠見の俵光石が刻んだものです。



④ 小高記念館

政治家であり詩人であった小高熹郎(おだかとしろう)は館山市の名誉市民です。白鳥省吾やサトウハチローなどと交流し、『館山音頭』『里見節』など多くの作品を書きました。城山公園にも詩碑があります。関東大震災の後に移築した大正期の銀行建物は、地域の歴史文化をガイドするNPO法人安房文化遺産フォーラムの交流拠点となっています。



⑤ 東京海洋大学 館山湾内支所

明治22年(1889)、関澤明清らにより大日本水産会水産伝習所が東京に設立。明治30年(1897)に官制の水産講習所となり、昭和24年(1949)に東京水産大学、平成15年(2003)に東京商船大学と合併して東京海洋大学となっています。明治34年(1901)に館山の実習場を開設以来、現在でも北下台に隣接した場所と坂田地区に同大学館山ステーションがあります。

